

# エゾシカ衝突事故対策の 新たな課題と今後の取組

釧路開発建設部 道路計画課

○宗山 徳史  
貴田勝太郎  
井内 彰宏

釧路根室地域では、エゾシカと自動車の衝突事故が大きな課題となっている。釧路開発建設部では、過年度より、エゾシカと自動車の衝突事故を防止するため、多様な取組を実施してきたところである。本報告では、釧路開発建設部が実施したエゾシカと自動車の衝突事故防止のための取組事例や新たな課題、今後の取組について述べる。

キーワード：事故防止、エゾシカ、ロードキル

## 1. はじめに

釧路根室地域は、世界自然遺産である知床をはじめ、阿寒国立公園や釧路湿原国立公園、ラムサール条約湿地である釧路湿原や霧多布湿原を有するなど、自然豊かな地域であると同時に、多種多様な動植物が生息している地域である。

このような自然環境豊かな地域にある幹線道路では、野生動物と自動車の衝突事故（以下、「ロードキル」という）が多発しており、特に、当該地域に多く生息しているエゾシカによるロードキルは大きな課題となっている。

本報告では、エゾシカによるロードキル防止のために実施した多様な取組事例や、新たな課題、今後の取組について報告する。

## 2. 釧路根室地域のエゾシカの現状

エゾシカは北海道のみに生息するニホンジカの亜種であり、ニホンジカに比べ体が大きく、オスの成獣では120kg～150kgにも達するといわれている。

明治期には一時絶滅寸前にまで減少したものの、その後の保護政策により生息頭数を増やし、平成22年度における調査結果（図-1）によると、道東地域で25万頭±10万頭の生息が推定されており、当面の頭数管理目標とされる10万頭を大きく上回っている。

また、道東地域におけるエゾシカによる農業被害額は、平成24年の集計では過去最高額の約39億円に上り、当該地域における大きな問題となっている。

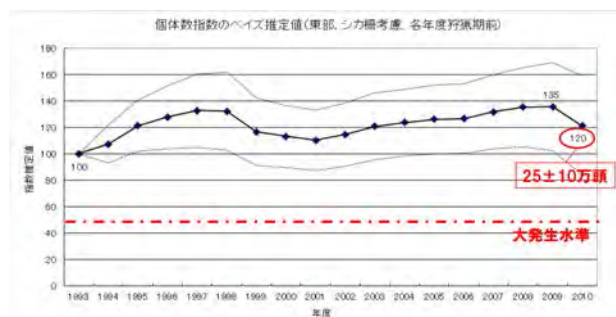


図-1 北海道東部のエゾシカ頭数（個体指数）の推移

## 3. 釧路根室地域におけるエゾシカとの衝突事故の現状

釧路開発建設部管内の国道におけるエゾシカの死骸処理件数の推移を図-2に示す。なお、本件数はエゾシカによるロードキル発生件数を直接示すものではなく、ロードキル発生件数を把握するための間接的な指標として用いている。

エゾシカの死骸処理件数は近年増加傾向にあり、平成24年度においては703件と依然大きな件数となっている。釧路開発建設部管内の国道では死亡交通事故に至る事象は近年発生していないが、前述の通り、エゾシカは個体重量が大きく、ロードキルが発生すると重大な結果になる危険性があることから、引き続きロードキル防止対策を実施する必要がある。

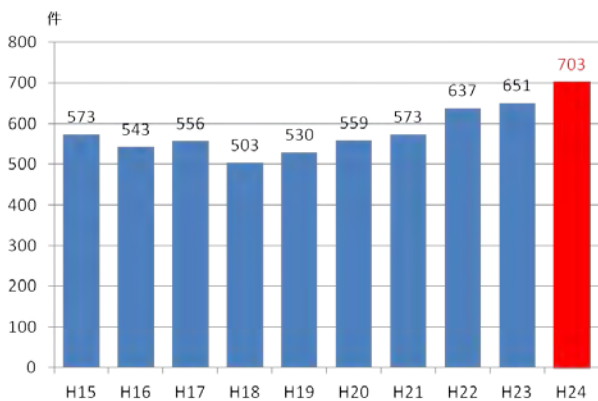


図-2 国道上のエゾシカ処理件数の推移



写真-1 エゾシカ侵入防止柵

#### 4. ロードキルに関する既往対策と注意喚起の拡充

既報<sup>1) 2)</sup>に詳しいが、釧路開発建設部ではロードキル対策として、エゾシカ侵入防止柵の設置を代表とするハード対策(写真-1)や、リーフレットの作成(写真-2)等のソフト対策両面で実施しており一定程度の効果を発現している。本項では、既往のロードキル対策の内、リーフレットの作成について報告する。

従来もリーフレットによるエゾシカのロードキル防止の啓発活動を実施し、リーフレットの更新に併せ、地域協働により種々の工夫を行った結果、道路利用者から好評を博したことは昨年の研究発表<sup>2)</sup>で報告した通りである。

今年度は、近年増加している外国人観光客を対象とした外国語版リーフレット(英語版、中国語繁体字版)を作成した(写真-3)。

特に、当該地域では、近年、台湾からの観光客が増加しており、当該地域の訪日外国人観光客の実に6割を占めている(図-3)。また、平成19年に外国運転免許の適用が拡大され、台湾からの観光客による運転機会の増加が予測される一方で、本年、釧路開発建設部で実施した台湾からの旅行者アンケートによると、エゾシカと自動車の交通事故の発生について認識が十分でないことが判明したことから、外国語版リーフレットを作成した。なお、作成したリーフレットは、道の駅、観光協会、レンタカー店等に配布するとともに、釧路開発建設部のホームページで公開する等、広く周知している。



写真-2 リーフレット(日本語版)



写真-3 リーフレット(英語版、繁体字版)

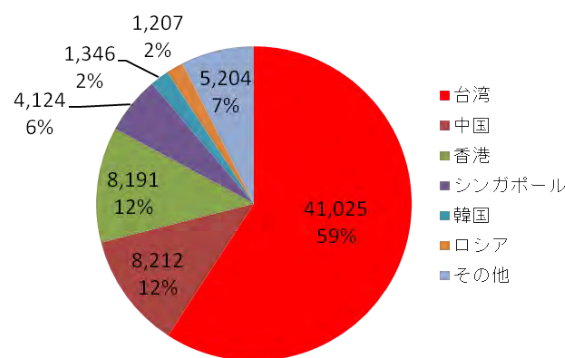


図-3 釧路・根室圏における訪日外国人宿泊者数

## 5. 施設によるロードキル対策の課題

エゾシカ侵入防止柵は、道路の両側に遮蔽物を設置することによりエゾシカの侵入を防止するものであり、物理的に分離できるため効果が大きいですが、一般国道では、交差する道路等によりエゾシカ侵入防止柵を設置出来ない箇所が生じ、当該箇所からエゾシカが道路内に侵入する場合があります（図-4）。

従来からの対策として、ワンウェイゲート（図-5、写真-4）やアウトジャンプ（図-6、写真-5）の設置により、道路内に侵入したエゾシカを道路外に誘導していたが、エゾシカ侵入防止柵の延伸とともに、道路内に侵入したエゾシカを誘導する重要性は更に増し、釧路開発建設部としても工夫を重ねることとなった。

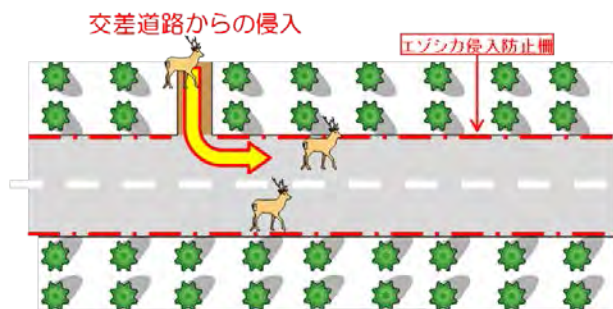


図-4 ロードキル対策の課題

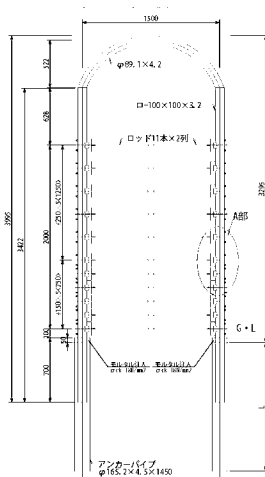


図-5 ワンウェイゲート



写真-4 ワンウェイゲート

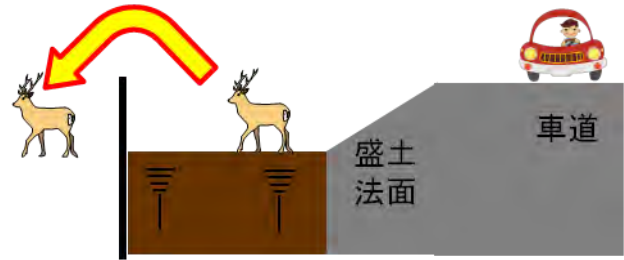


図-6 アウトジャンプ



写真-5 アウトジャンプ

## 6. エゾシカの柵外への誘導施設に関する工夫

釧路開発建設部では、エゾシカによるワンウェイゲートの円滑な利用を促進し、当該箇所におけるロードキル発生リスクを低減させるため、次のような工夫を試験的に実施した。

実施箇所の選定に際しては、既往の調査結果より、①ロードキル発生件数が多い、②交差道路等により侵入防止柵を設置出来ない箇所が多数存在、③道路線形が比較的悪くロードキル発生リスクが高い箇所を選定した。

### (1) 誘導杭の設置

誘導杭は、ワンウェイゲートの前に障害物を設置し、エゾシカの移動方向をワンウェイゲート方向に変更させるよう促すことを狙ったものである。

誘導杭には直径125～135mm、地上高80～100cm程度の丸太木杭を設置し、ワンウェイゲートから100cm程度離して4列設置した。木杭間隔は直角方向で50cm程度を基準とするが、侵入防止柵と道路路肩までの幅、道路側溝の位置等の条件で調整した。

木杭の配置は、既存事例がある「一列設置」と誘導性を高める「ハの字設置」に2種類を実施した。（図-7、写真-6）

### (2) ネットの設置

目隠し用ネットは、ワンウェイゲート付近のみ柵外を視認できる環境を創り出し、ワンウェイゲートは柵外に脱出可能な場所であることをエゾシカに認識させること

を狙ったものである。

目隠し用ネットは、材質がポリエステル製の「建築工事用メッシュシート」を設置し、網目 5mm のメッシュ、幅 187cm のロールを縦に使用し、色相は、シカの視認が利くグリーン系のダークグリーンを使用した。

エゾシカは柵沿いに移動する習性があり、ある程度の延長が必要と考えられることから、ネットの設置は侵入防止柵 3 面程度 (7.5m@1 面×3 面=23m、左右両側で 6 面) とした。(図-8)

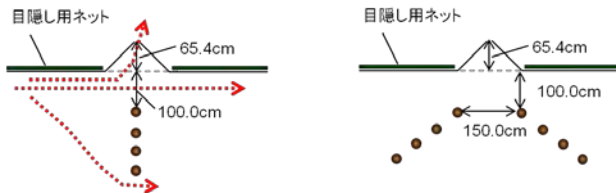


図-7 誘導施設の工夫 (誘導杭)



写真-6 誘導施設の工夫 (誘導杭)

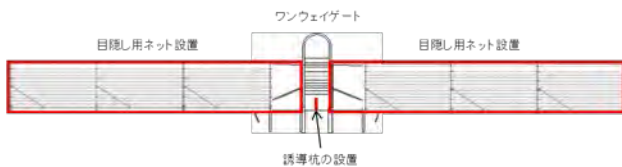


図-8 誘導施設の工夫 (ネット)

当該施設は、本年度、試験的に実施したものであり、引き続き当該施設に関する効果検証を実施していく予定である。

## 7. おわりに

エゾシカによるロードキルは、釧路根室地域特有の課題であり、継続した取組が必要と考えている。釧路開発建設部では、ハード対策やソフト対策を効果的に組み合わせ合わせた総合的な対策を実施し、より安全安心な道路交通を提供して参りたい。

## 参考文献

- 1) 岡田慎哉、本間登美夫、高野進 (2011) 「シカ事故の防止に係る啓発活動の紹介—より安全・安心な道路のために—」  
平成 23 年度北海道開発局技術研究発表会
- 2) 貴田勝太郎、井内彰宏、川村達也、高野進 (2012) 「エゾシカ衝突事故対策の進展と課題」  
平成 24 年度北海道開発局技術研究発表会